

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注1)

孔子こうしの、弟子どもを具して、道をおはしけるに、垣かきより、馬うま、頭かしらをさしいでてありけるを

(連れて)

(垣根)

①

見て、「牛よ」とのたまひければ、弟子どもあやしと思ひて、あるやうにあらむと思ひて、道

(奇妙だ)

(何か理由があるのだろうか)

②

すがら、心を見むと思ひけるに、顔回がんかいといひける第一の弟子の、一里を行きて、心得こころえたりけ

(考えを知ろうと思っていたところ)

(理解した)

(注2)

(注3)

るやう、「日よみの午うまといへる文字の、頭さしいだして書きたるをば、牛といふ文字になれば、
ようすで

人の心を見むとて、のたまふなりけり」と思ひて、問ひ申しければ、「しか、さなり」とぞこ

(そう、そのとおり)

たへたまひける。

(源俊頼『俊頼髓脳』による。)

(注1) 孔子Ⅱ中国、春秋時代(紀元前)の学者、思想家。「論語」は孔子と主に弟子

たちとの問答を収録した書である。

(注2) 日よみⅡ暦、または十二支。

(注3) 午Ⅱ十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未…など)の一つ。

問一

(1) 《解答例》

(弟子たち)の(推理力・思考力・論理力・発想力など)を(試そう)と考えたから。

【評価のポイント】

- A 孔子が弟子たちのどのような力を試したかったのかが具体的に表現されている。
- B 孔子の言動が意図的に弟子を試すものであったことが表現されている。

(2) 《解答》

「しか、さなり」とぞこたへたまひける。

問二 馬が垣根から頭を出していたことと、()ことを結びつけた。

《解答例》

	出	午
	て	と
	い	い
	る	う
	と	文
	牛	字
	と	の
	い	縦
	う	画
	文	が
	字	上
	に	に
	な	突
	る	き

【評価のポイント】

- A 「午」と「牛」との文字の対比が、適切な表現で具体的に説明されている。
- B 「午」と「牛」との文字が違っていることが説明されている。

問三

あらんとおもいて

歴史的仮名遣いのルールを確認してみましょう。